

第 221 回複合材料部門委員会ビジネスミーティング議事録（案）(090710)v0714

日時，場所：2009 年 7 月 10 日 11:00-12:30，大阪市立大学文化交流センター大セミナー室

出席者：北條，合田，日下，大窪，高坂，倉敷，黄木，櫻井，野田，島村，松岡，田中(達)，草野，久保内

資料 1 特集号の予定

資料 2 第 221 回複合材料部門委員会ビジネスミーティング議題および JCOM39 に関する経緯と提案

資料 3 第 14 回破壊力学シンポジウム

資料 4 第 15 回グリーンコンポ WG

1. 次期委員長の件 委員長から合田副委員長(山口大学)を次期委員長に推薦したい旨説明があり承認.
2. JCOM-39 の開催形態について 後述
3. 会誌「材料」連載講座の件
「グリーンコンポジット」or「バイオコンポジット」をテーマとして 2010.11 から 2011.2 の連載 4 回.
4. 会誌「材料」複合材料小特集号の予定(資料 1)
次回は 2011 年 5 月号 論文投稿締切りは 2010 年 9 月 > 次回 JCOM の内容の投稿依頼
次々回は 2012 年 5 月号 論文投稿締切りは 2011 年 9 月
5. 出版物
ACCM-6 にて設立した基金などを用いて，上記の材料の講座のあと，本にまとめる予定。
平成 23 年に迎える「60 周年記念出版物」として発刊予定.
6. 会誌 60 周年記念号
各部門委員会の関連分野の研究の最近 10 年の動きを会誌 2 ページ程度でまとめる.
7. 支部・部門合同懇談会(6/25)報告
新公益法人化に向けての部門委員会の対応依頼. 具体的には H22 年度の活動から.
8. 国際交流(第 3 回日中グリーンコンポ，10/7-9，上海，東華大学)(合田副委員長)
研究発表締切り 8/7，参加申し込み締め切り 8/28
9. 第 222 回(破壊力学シンポジウム)(資料 3，4)(島村委員)
全申込数 64 件のうち複合材料セッション 20 件と多数の協力をいただいた報告があった. また，併設される第 15 回グリーンコンポ WG の案内があった.
10. 第 223 回(衝撃部門委員会，日本複合材料学会関西支部との合同)
12/18(金)1130-1700，日本材料学会会議室にて開催予定
11. 第 59 期総会併設(札幌)2010.5.21-23
第 59 期に関しては実施しないことが提案され承認.

JCOM-39 の開催形態について(資料 2)

1. 提案の趣旨説明(委員長)

日本全体で複合材料分野の高い学術レベルを維持し，若手研究者の今後を支援するためにも，全日本で活発な議論がなされる「日本を代表する複合材料の会議」を創設したい.

副次的なメリットとして，現状では国内，国際および 2 国間を含め講演会の数が多く，研究者が類似の内容を複数の講演会で発表することが多くなっている点につき，講演会の内容を高め講演会の数を適正規模にできる点が挙げられる. また，学術分野の成熟によりこれから 10 年で研究者が減少することが明白であり，これに対する対策を併せて実施できる.

2. これまでの経緯

- 1) 日本複合材料学会の武田会長(当時)と北條で約 1 年前(2008 年夏頃)から，両学会で合計 3 回実施している講演会を春と秋の 2 回に統合し，春の会議を合同で開催することにより「日本を代表する会議」を創設できないかについて，相談を開始. 本部門委員会側では，幹事会において，日本複合材料学会側では，理事会において議論.
- 2) 材料学会/部門委員会の立場が生かされるように，これまで/今後とも交渉に努力
- 3) 両者において，講演会の統合に関しては概ね前向きに進めることで合意(5/18).

3. 提案する新しい会議

1) 名称(主題案)日本複合材料合同会議

Japan Joint Conference on Composite Materials (JCCM)

(副題案) JCOM39/ JSCM2010

細かい点はまだまだ調整が必要.

- 2) 期日, 形態 両学会の共同主催, 隔年で関西, 東京どちらも3月に開催
- 3) 実行委員会
合同会議の実行委員会は両学会で構成. 主担当と副担当.
- 4) 予算 会計は主担当学会が担当.
- 5) 賞 複雑な形式は避ける. 例えば合同会議より講演賞を出すなど, 要検討

4. 委員長及び幹事会からのお願い

来年(2010年)3月のJCOM(京都)から上記の形態で実施したい. そのためには, 8月中に具体案を固める必要がある. 7/10の部門委員会および7/15の日本複合材料学会理事会で詰めをしたい.
総論としての方向性を認め, 具体的には実行委員会で決めていきたい.

5. 議論の詳細

委員長より, 松岡委員から意見があり, メールで委員に照会した旨が説明された.
松岡委員および田中(達)委員より, 片山委員の意見を含め紹介があった.

- ・動きが急すぎる. もっと時間をとって議論すべきなのでは
委員長→時間を使っても, お互いの意見が変わるとは思えない.
委員長→これまでも歴代委員長が努力されてきた. 従来の延長線上では良い改善策が見つからない.
委員長→他に良いアイデアがあったらいくらかでも提案して欲しい.
委員長→今日ですべて決めるのではなく, 引き続き意見を募りたい.
委員長→部門委員会の年齢構成が40歳以上に偏っており, 10年経つと主要メンバーの年齢構成が非常に厳しくなる. 複合材料学会も同様の傾向と思われるが, 会員数は微増, かつ分母の総会員数が多い分若手会員の総数も多い. 合同会議によって若手間の研究交流促進を図りたい.
- ・材料学会と複合材料学会のどちらかに入っておけば良いことになるのではないかと
委員長→材料学会は複合材料だけでなく「材料科学」の観点から学術活動を行う団体であり, 多くの委員は, 本部門委員会以外に他の部門委員会にも属して活動している. 一方, 複合材料学会は「複合材料」のみを対象とする学会であり, 設立の目的が異なる.
合田副委員長補足 材料学会の規約には「材料科学の発展」が掲げられている. 一方, 複合材料学会は「複合材料および構造に関する科学技術」を対象としており, 対象は共通でも分野が異なる. 例えば「グリーンコンポジット」は, まさに当部門委員会が目的とする分野である.
- ・提案に至るまでの過程が秘匿的である. 部門委員はこの5月か6月頃までこの事について何も聞かされていない.
合田副委員長→相手のある交渉の事であり, また相手も組織を代表する少数(理事会)で相談をされており, ある程度内密に話を進めた事には理解を頂きたい. 幹事は部門委員に案をLeakする立場にもなく, 事前相談がなかった事も許容頂きたい.
- ・部門委員会が担当する会議が隔年になり, 発表の機会が失われる.
委員長→むしろ, 部門委員会が共同で主催して日本を代表する会議を毎年開催できることが重要. 複合材料における部門委員会の役割はむしろ向上することが期待される.
- ・合同会議における学会間の取り決めは文章化するのか?
委員長→する. 委員にも公開する.

他の委員の主要な意見

- ・若手間の交流を含め, 一つの会議で全日本のすべての情報が入るため, 合同会議はよいと思う.
- ・部門委員会の独自性(アイデンティティ)を保つことも重要である.
委員長補足 部門委員会の独自性は, 定例部門委員会およびWGで保つよう努力していくべきである. また, 学生の発表の機会が減る点などに関しても, これらの機会を補いたい.

6. まとめ

- ・「日本を代表する複合材料の会議」の創設に関して, 総論的としての方向性について, 概ね理解していただいた.
- ・創設する会議を春に開催するという事は合意.
- ・材料学会と複合材料学会とで主担当と副担当を隔年で交代するという点に関しては, 部門委員会内での議論を継続することを確認した.
- ・よりいっそうの議論をするため, 委員の意見を聞く期間を設ける. 今回のビジネスミーティング議事録を全委員に公開し, 7月中を期限に追加の意見を募る.
- ・8月上旬に幹事で意見をまとめる方向で検討したい. 最後は幹事に一任いただきたい.